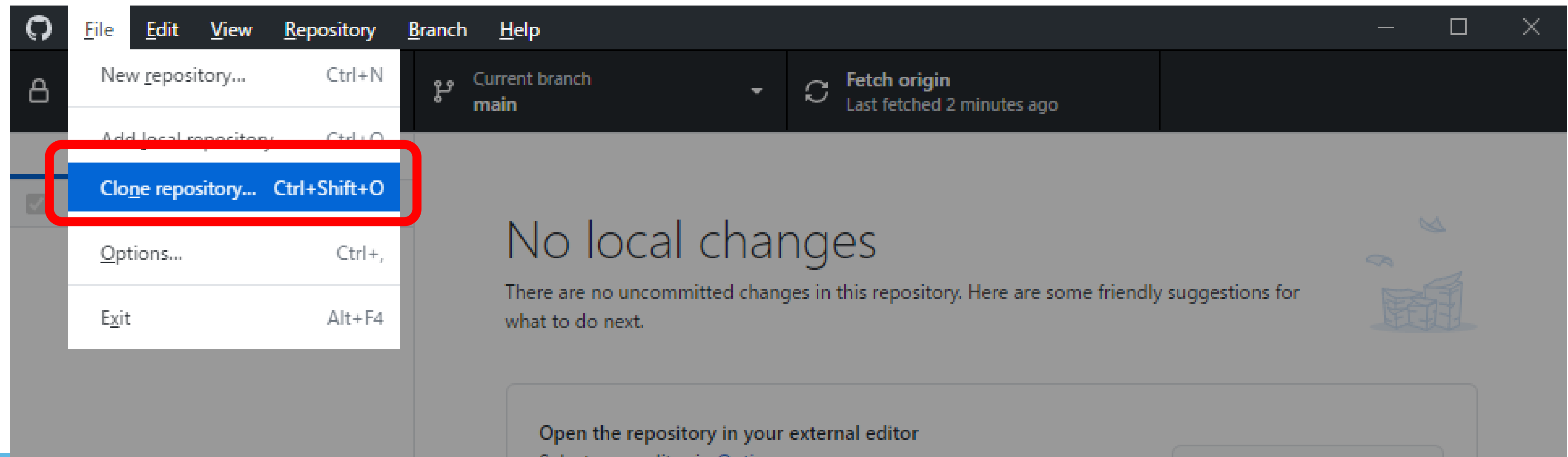
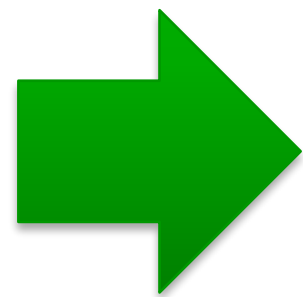


GitHub Desktop による レポジトリのクローンと利用の準備 [全員]

ここからの作業は、PM以外の全員が実施します

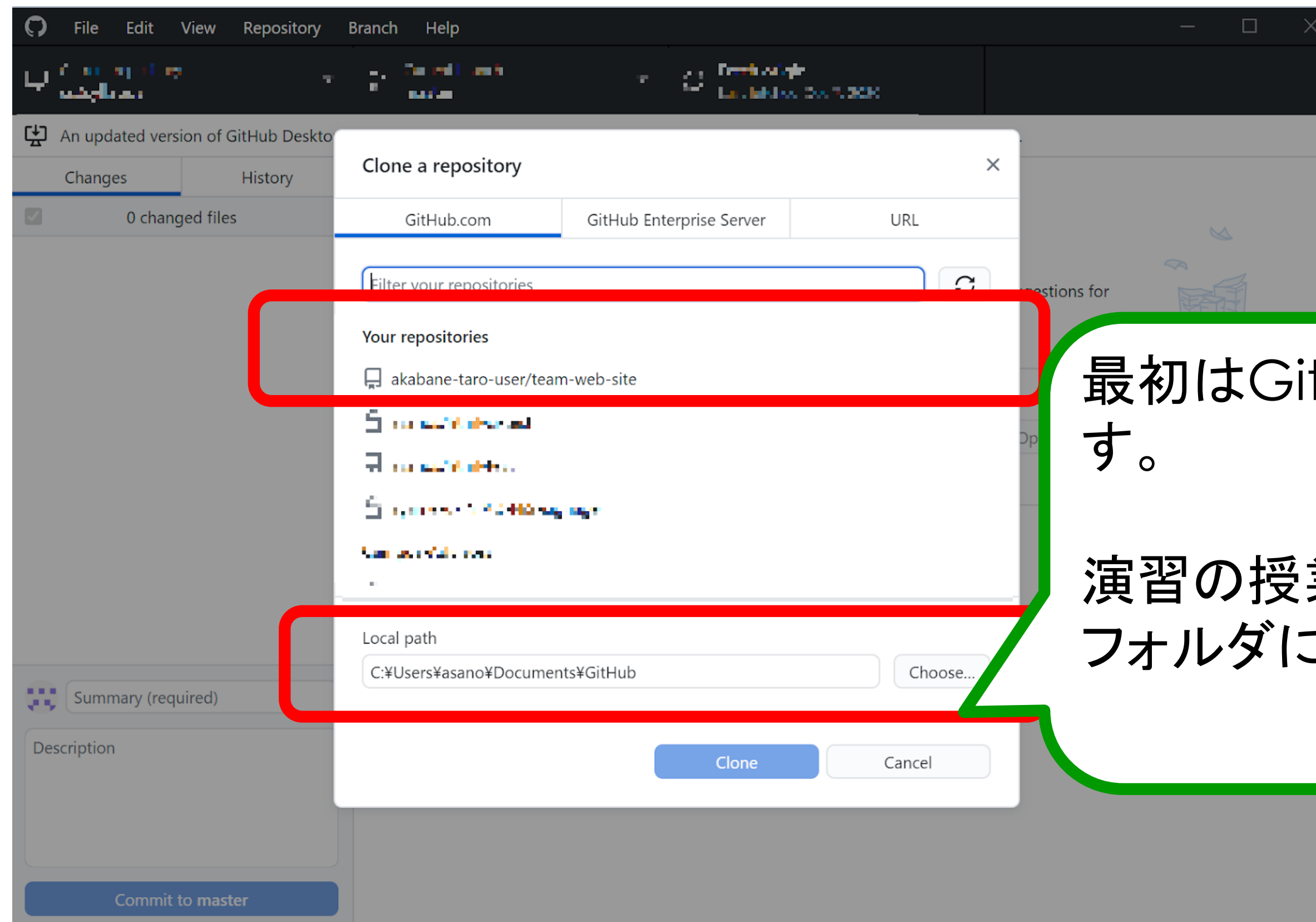
GitHub Desktop でリポジトリからクローン(PM以外全員)

- ここからの手順では、Djangoのプロジェクトを作成します
- 自分のコンピュータにインストールしてある GitHub Desktop を開き、File > Clone repository ... メニューを開きましょう



リポジトリからクローン

- 第9回で作成したリポジトリを選んで、Clone をクリックしましょう
 - もしこの画面に Sign in と表示されている場合は、MOOCsの次のページを参考にしてください
 - 保存先を変えたい場合は、「Local path」欄を書き換えて好きなフォルダ（例えば演習の課題を保存しているフォルダ等）にしてからCloneをクリックしてください

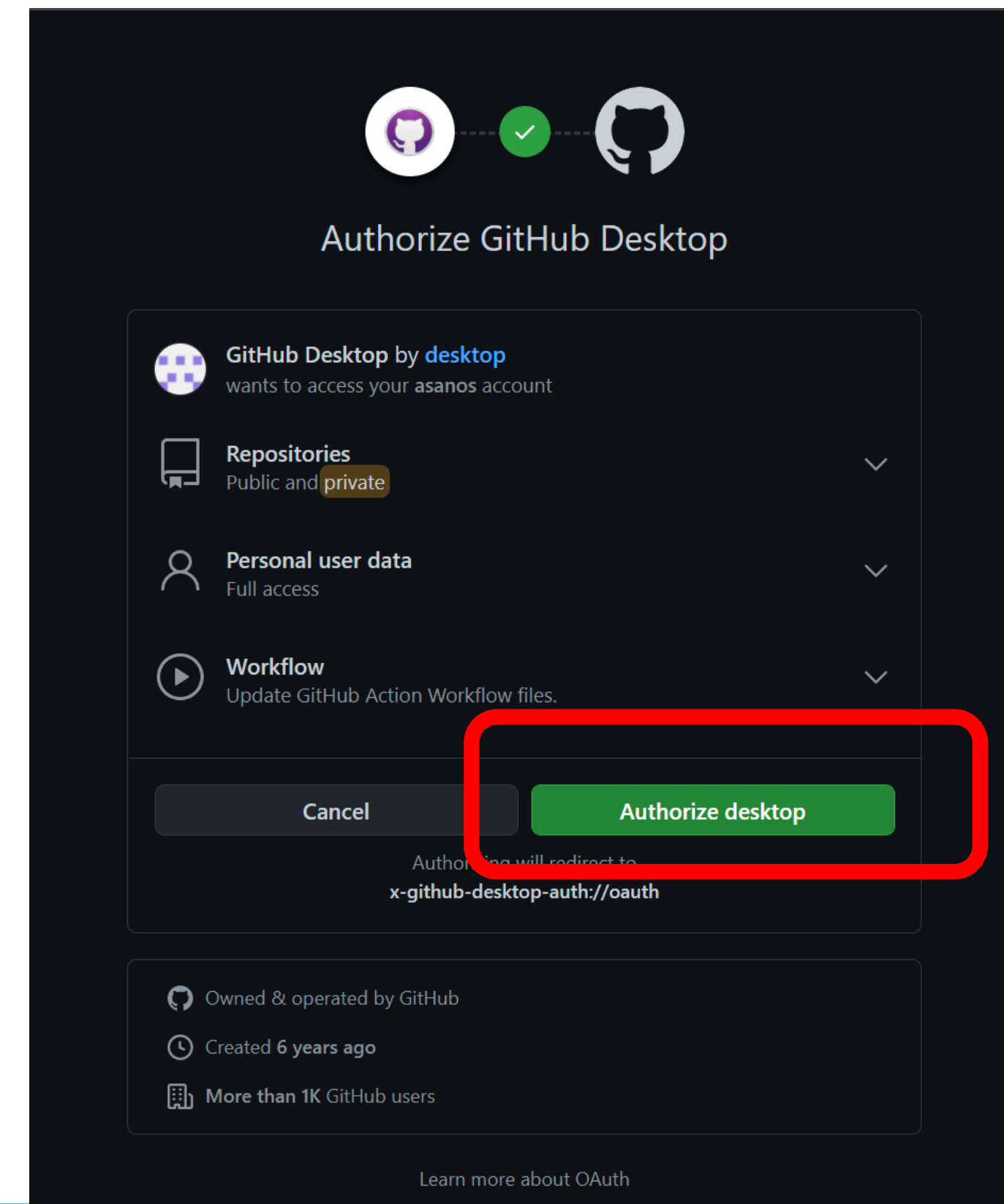
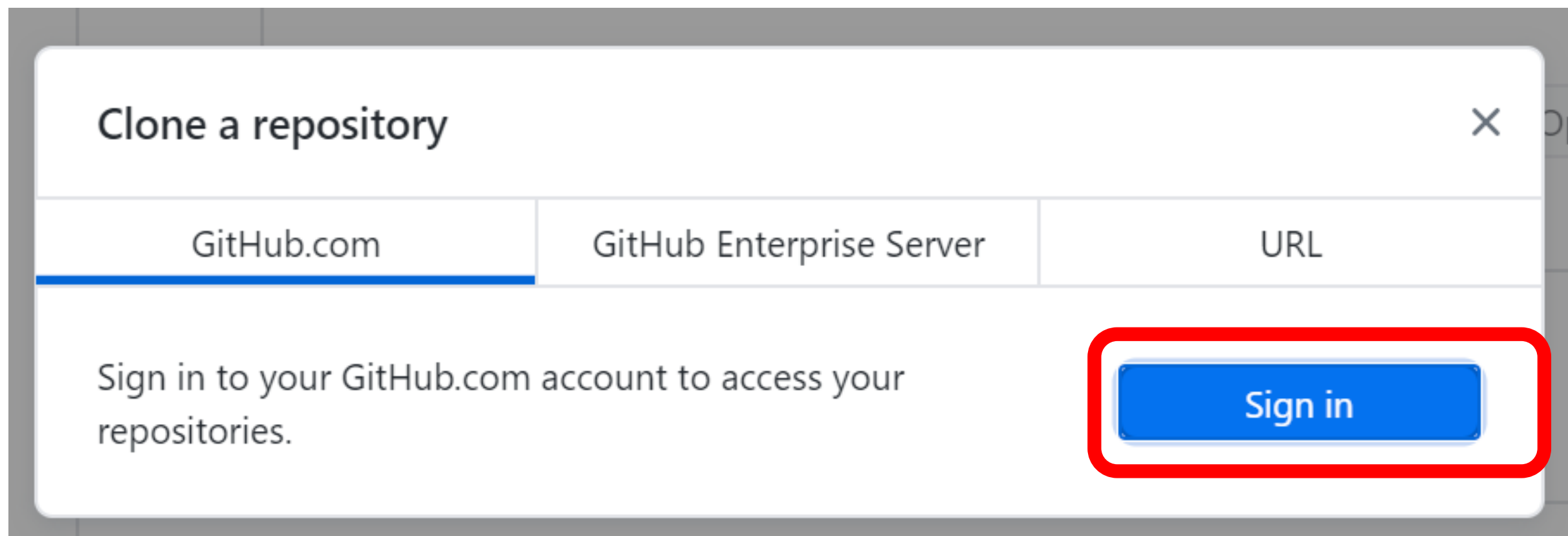


最初はGitHubフォルダになっています。

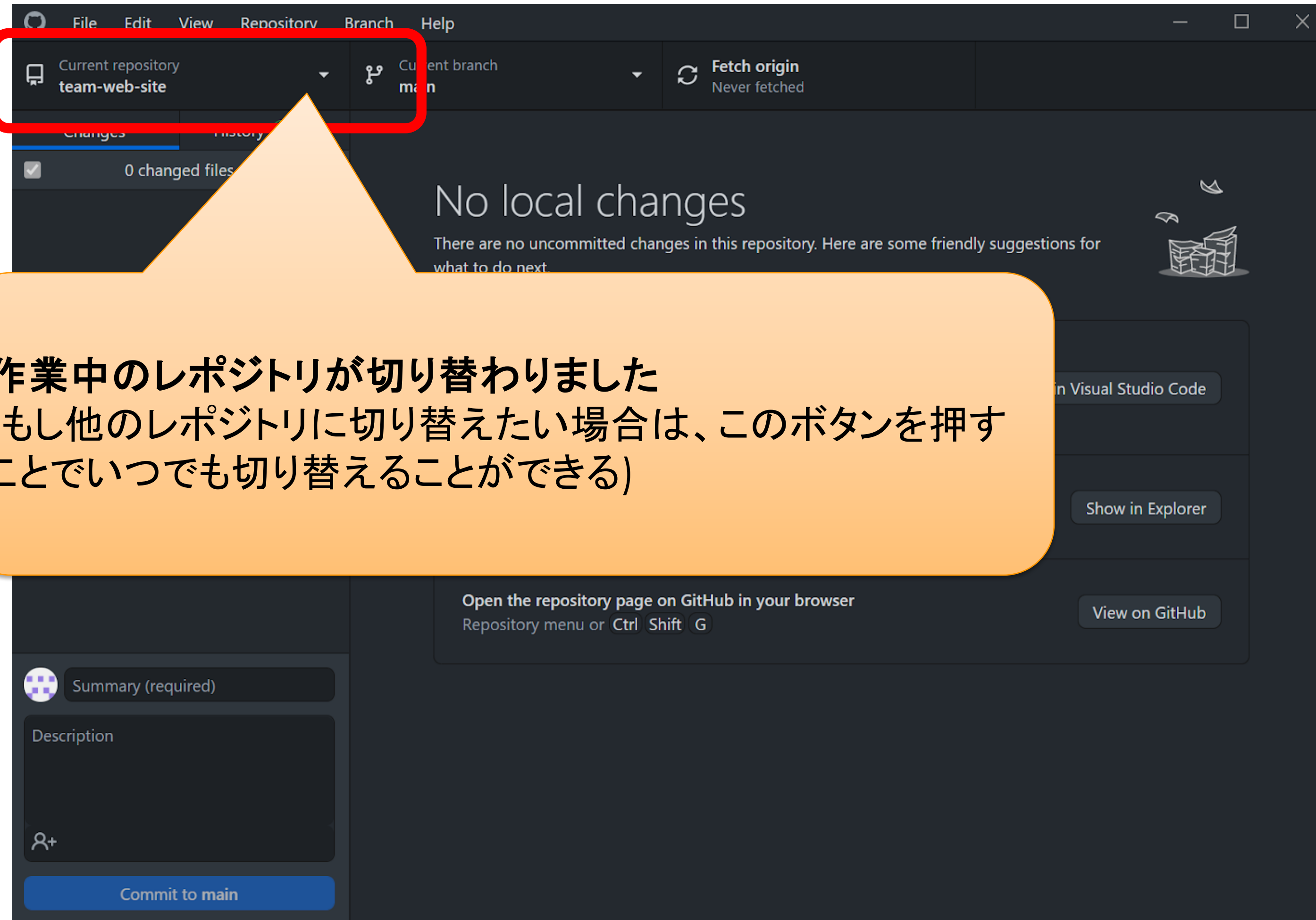
演習の授業で作った cs_exercise フォルダにすることをおすすめします。

参考：もしリポジトリ一覧が出てこない場合

- Clone a repository を選んで以下の画面になる場合は、「Sign in」を押してGitHub.comへログインしてください
 - ログイン方法はMOOCs 9-1, GitHub Desktopのインストールに記載されているとおりです

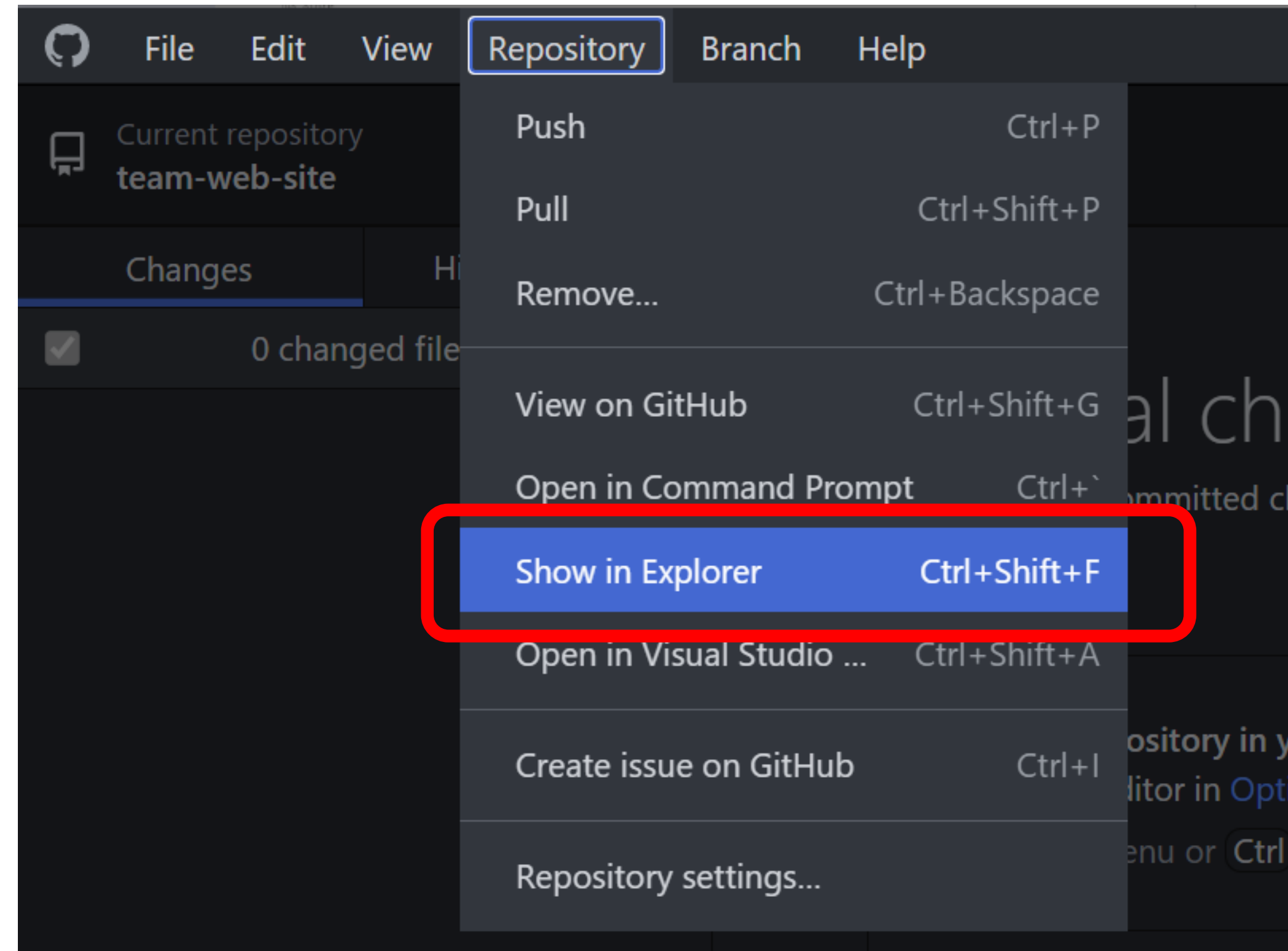


この画面までたどり着ければClone成功です



作業中のレポジトリが切り替わりました
(もし他のレポジトリに切り替えたい場合は、このボタンを押す
ことでいつでも切り替えることができる)

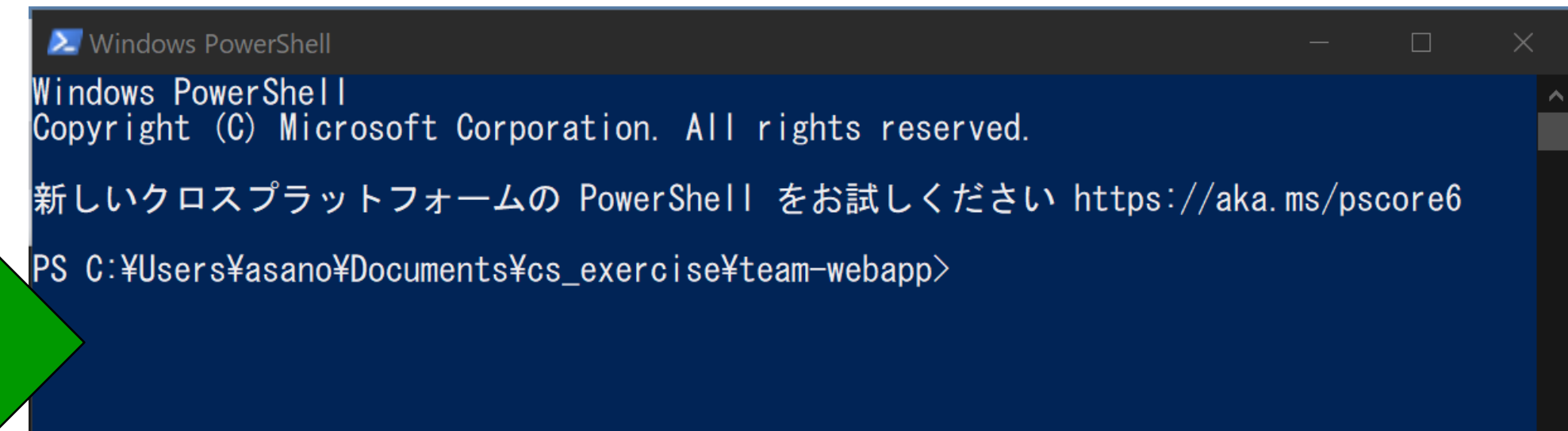
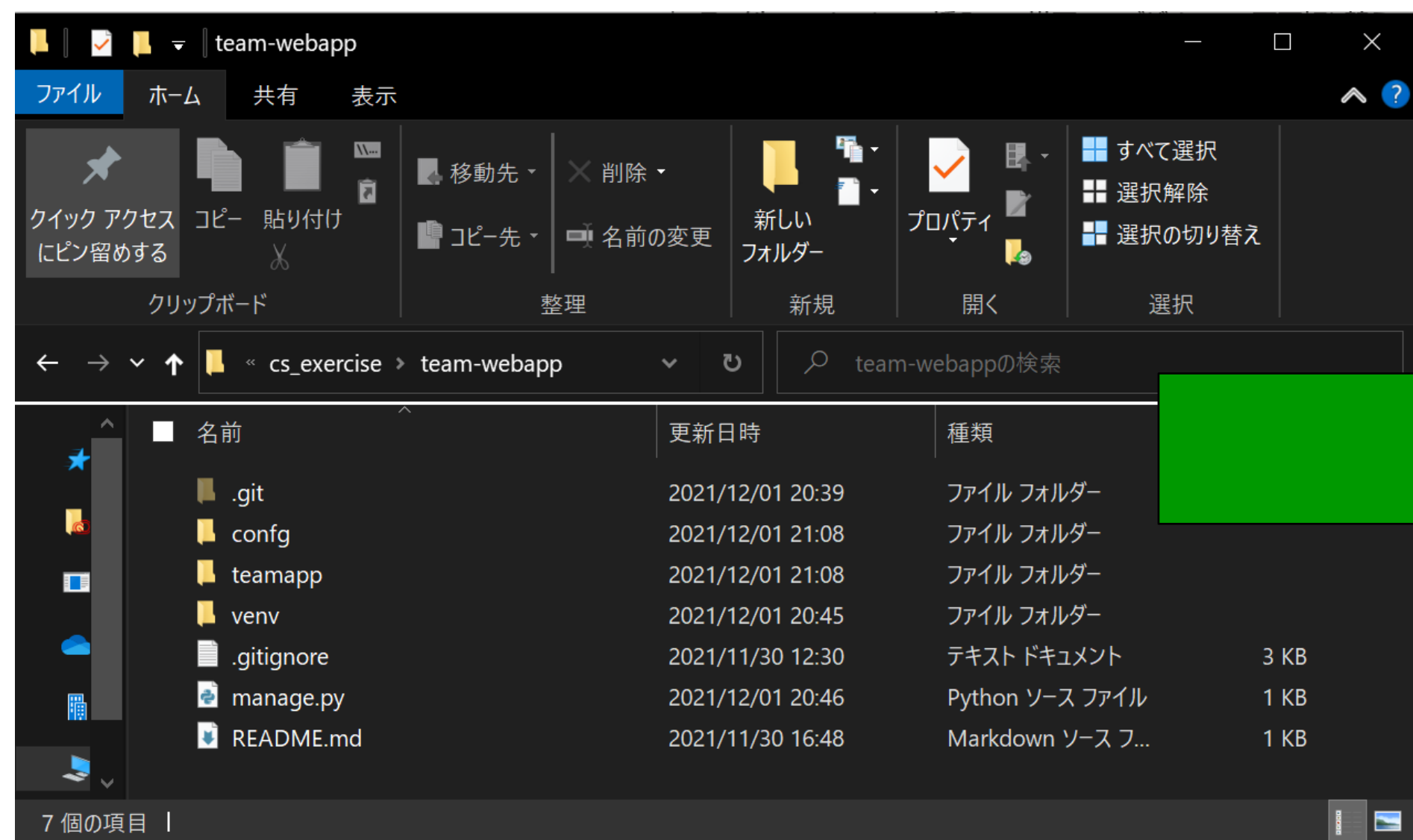
エクスプローラーでcloneしたフォルダを開きます



GitHub Desktop のメニューから Repository -> Show in Explorer を選ぶと、エクスプローラーで、cloneしたフォルダが表示されます。

PowerShell を開いてDjangoのプロジェクト・アプリケーションを作る

- 先ほどのエクスプローラーで開いたフォルダを、PowerShellで開きます
 - エクスプローラーのアドレスバーに powershell と入力してキーボードのEnterキーを押すことで、PowerShellが開きます (mac の場合は 09-e の手順を参考に、このフォルダに cd コマンドで移動してください)
 - 09-e の手順を参考に、このフォルダ内で仮想環境を作成して有効化してください



09-e を参考に仮想環境にDjangoをインストールする

- 仮想環境はコンピューターごとに構築する必要があります
 - すべてのメンバーが仮想環境を作成して有効化し、Djangoをインストールする必要があります
 - 一方で、プロジェクトやアプリの作成、config/settings.pyへの追記はPMが実施しているため、他のメンバーは実施不要です
- 1. 仮想環境を作成し、有効になっていることを確認してから、09-eを参考にしてdjangoをインストールします
 - `pip install django`
- 2. サーバーが動作することを確認します
 - DjangoのサーバーをPowerShellで起動します
 - `python manage.py runserver`
 - ブラウザでサーバーにアクセスし、想定通りの動作をしていることを確認します
 - <http://127.0.0.1:8000/> にブラウザでアクセス